

○大間々地区検討委員会 第3回委員会の協議内容と得られた方向性について

	〈協議①〉 大間々の学校の今後について
意見の概要	①みどり市として合併したわけだから、旧3町村毎に計画を作るのはおかしい。人口のバランスや子どものバランスなどについてみどり市全体を見て、本来どうあるべきかということを考えれば、学校の配置はおのずと変わってくる。大間々も笠懸も境がないくらいくっついているのだから、垣根を越えた計画を作るべき。 ②もっと将来の部分で考えると、仮に笠懸小を作ったとして次に老朽化の話になると大間々中が出てくる。現在大間々の子どもは激減しているので、大間々からバス通学で笠懸に通うという話になる可能性がある。そうなると大間々の住民としては好ましくないと思う。 ③笠懸小と大間々中だけが目標使用年数が60年。他は皆80年なので、笠懸小と大間々中も同じように80年使えばよいのではないか。笠懸小だけリフォームして大間々中は直さない、という訳にはいかないだろう。同じみどり市の町なのだから。 ④もっと先の将来図として、今まで学校はなかったけれどここに作るのが最適だという話合いの中で、その前段階として直近については大間々南小の問題もあるからこの形でワントンポ置く、というように2段階で考えていくのはどうか。 ⑤大間々にある空き教室を有効活用するべき。大間々地区は北部からバス通学をしているのだから、大間々と笠懸の間でもバス通学をさせてもいいのではないか。 ⑥今年度大間々南小に入学した子どもは9人。6年間過ごして卒業後、この9人が同じ空間で学ぶことができるのか、それとも分断されてしまうのかという観点も考えたい。 ⑦人口推移については10年20年先はほぼ読めないと思う。だから人口推移を作りに行くような学校を提案したい。例えば大間々の商店街そのものを学校にして、空き店舗を教室、地域の方が先生になり、給食は商店街の食堂で食べる。こういった取組は他にないので、人が集まって新しい再生が起きるかも。学校を軸にして人口と教育を再生するような、ワクワクするようなことを答申として示したい。

	
得られた方向性	①みどり市としての一体化や財政的視点に立って、みどり市全体として適正規模及び適正配置について考えていくべき。(継続協議) ②適正規模及び適正配置を考える中で、大間々に人口を呼び込めるような取組も考えられるとよい。(継続協議) ③大間々北小と大間々南小を統合し小学校2校にしていくのが望ましい。中学校は2校を統合し1校にしていくのが望ましい。(第2回から継続協議) ④義務教育学校化ではなく、小学校、中学校を存続させる方向が望ましい。(第2回から継続協議) ⑤統合となった場合の学校の配置場所について。(第2回から継続協議)

〈協議②〉 給食提供方式について	
意見の概要	①現状を踏まえると、給食センター方式とすることが当然の流れではないか。 ②財政面、アレルギー対応への状況を踏まえると、給食センター方式が望ましい。 ③給食センター方式になると栄養教諭や学校栄養職員の人的配置が薄くなる現状がある。
	
得られた方向性	①クオリティに差がないのであれば、財政的視点、アレルギー対応給食、食育の充実など、給食センター方式としていくことが望ましい。